大津市子ども読書活動推進計画見直し要素

資料13

現　在　の　状　況

国の方針

〇第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」 令和5年度～令和9年度

急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、全ての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、以下の点に考慮し、社会全体で子どもの読書活動を推進する

★基本的方針

【基本方針Ⅰ】不読率の低減

・就学前からの読み聞かせ等の促進、入学時等の学校図書館のオリエンテーション等の充実

・高校生の探究的な学習活動等での図書館等の活用促進、大人を含めた読書計画の策定等

【基本方針Ⅱ】
多様な子どもたちの読書機会の確保

・障害のある子ども、日本語指導を必要とする子ども等、多様な子どもの可能性を引き出すための読書環境を整備

【基本方針Ⅲ】
デジタル社会に対応した読書環境の整備

・社会のデジタル化、GIGAスクール構想等の進展等を踏まえ、言語能力や情報活用能力を育む

・図書館及び学校図書館のDXを進める

【基本方針Ⅳ】
子どもの視点に立った読書活動の推進

・こどもが主体的に読書活動を行えるよう、子供の意見聴取の機会を確保し、取組に反映させる

★子ども読書活動の推進体制・推進方策

〇家庭、地域、学校等が中心となり社会全体で取り組む必要がある

Ⅰ　共通事項

1　連携・協力

・教師、司書、ボランティア他関係者の連携・協力

・地域における学習資源・人的資源の活用

2　人材育成

・読書バリアフリー法やICT環境の変化を踏まえた育成

3　普及啓発

・「子ども読書の日（4/23）」の普及促進

4　発達段階に応じた取組

・乳幼児期からの切れ目のない支援の促進
・学校種間の移行段階に着目した取組の促進

5　子どもの読書への関心を高める取組

・子どもが主体となって実施する活動や協働的な活動の推進

・ICT活用による既存の取組の更なる参加促進

・全ての子どもの参加しやすさを考慮した取組の促進

Ⅱ　家庭

・家庭教育支援チームの配置促進
「ブックスタート」「家読（うちどく）」等の活動推進

Ⅲ　地域（図書館）

・アクセシブルな書籍等（点字資料等）の整備・提供
・多言語・やさしい日本語による利用案内
・子どもの要望を取り入れた資料・環境整備
・電子書籍貸出サービス等の充実　　ほか

Ⅳ　学校等

・多様な背景を持つ子どもへの読書機会の場の提供
・特別支援学校を含む学校図書館資料の整備
・図書館、ボランティア等との連携
・1人1台端末の活用
・子どもの意見聴取の機会の確保
・電子書籍貸出サービスの導入
・学校図書館資料の計画的整備
・子どもの意見聴取機会の確保
・司書教諭、学校司書の配置促進　　ほか

Ⅴ　民間団体

・読書週間等のキャンペーン、読書感想文コンクール等の開催

・専門的知識を有する者（絵本専門士等）の養成

・民間団体やボランティアへの支援
・子ども夢基金による助成　　ほか

県の方針

〇第5次滋賀県子ども読書活動推進計画
令和6年度～令和10年度

★目指す姿

すべての子どもが身近な学校や家庭・地域の人々の関りによって本に親しみ、より豊かな人生を送ることのできる滋賀

★基本目標

すべての子どもがいつでもどこでも楽しく読書ができる環境づくり

★基本方針

(1)いつでもどこでも「こども　としょかん」

〇子どもの身近なところに本があることが重要

・すべての子どもが好きな時間に好きな場所で主体的な読書活動ができるよう、一人ひとりの読書を支える環境の整備・充実に努める

(2)「支える人」を支える「こども　としょかん」

〇子どもと本をつなぐ人が必要

・学校司書、司書教諭、司書等が必要な資質・能力の向上を図る機会の提供に努める

・読書ボランティア等、子どもの読書活動を支える様々な立場の人たちが交流や連携を図れるよう、必要な施策の展開に努める

(3)子育て世代にやさしい「こども　としょかん」

〇保護者が読書活動に理解と関心を持つことが重要

・幼稚園や保育園、認定こども園のほか、子育て世代が日常的に利用する児童館やショッピングセンター等で自然と本に出会う機会の創出に取り組む

・公立図書館で子育て世代がより気軽に利用しやすい環境づくりを推進する

(4)みんなでつくる滋賀まるごと「こども　としょかん」

・家庭、公立図書館をはじめとする地域、学校、民間団体等社会全体が連携して子どもの読書環境の充実をめざす

・「こども　としょかん」サポートセンターを設ける

★取り組むべき事項

(1)学校図書館の機能強化および取組の充実
(2)子ども読書活動を支えるひとづくり
(3)子ども・子育て世代にとって居場所となる図書館づくり
(4)乳幼児からの読書習慣の形成

★子ども読書活動推進のための方策

1 家庭における取組
2 地域（図書館等）における取組
　・公立図書館における取組
　・児童館や公民館等における取組
　・読書ボランティア等における取組
3 幼稚園・保育園・認定こども園等における取組
4 学校における取組
　・小中学校における取組
　・高等学校における取組
　・特別支援学校における取組
5 啓発・広報等の推進
6 施策の推進方法

市の上位等の計画

〇大津市総合計画第3期実行計画
令和7年度～令和10年度

★総合戦略のテーマ

【テーマ1】

子育ての希望をかなえ、子どもの豊かな育ちを支えるまち

★基本方針

【基本方針1】

子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります

★基本政策

基本政策1

子どもの未来が輝くまちにします

施策3

子どもの教育の充実

①次代を生きる力の育成

・子どもたちが自立した個人として、こらからの社会を生き抜いていくために必要な資質と能力を養うとともに、多様性を尊重し、ともに学び、将来の目標や夢を育むことができる教育を行います。

〇第4期大津市教育振興基本計画/大津市教育大綱 令和7年度～令和11年度

★基本理念

一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育

(1)「一人ひとりが輝く大津の教育」

キーワード：個の伸長、多様性の尊重

(2)「ともに未来を創る大津の教育」

キーワード：社会の形成者、共生

(1)と(2)が相互に補完し合い、循環していくよう施策を推進する

★基本方針

【基本方針1】一人ひとりの可能性を引き出し、心豊かに生きる力を育む

施策項目

①確かな学びと可能性を引き出す教育の推進
②豊かな心を育む教育
③健やかな心身を育む教育の推進
④社会に対応できる教育の推進
⑤郷土への愛を育む教育の推進

【基本方針3】ともに学び支え合う社会の実現を目指す

施策項目

①家庭教育の充実
②社会全体で子どもを育てる機会の充実
③生涯にわたり学び支え合う人材の育成
④健康づくりと生涯スポーツの推進
⑤大津の歴史と文化、伝統を継承する学習機会の充実

〇大津市生涯学習推進計画
令和4年度～令和8年度

★目標

大津を愛し、いきいきと学び活動する“大津人”が育つ社会の実現

★基本方針・施策の柱

(1)学ぶ

生涯にわたって学び、地域への誇りや愛着を育む

1　生涯にわたって学べる環境づくり

①市民性を高める学習機会の提供
②ライフステージに応じた学習機会の提供
③多様な手段による学習情報の発信

(2)つながる

一人からみんなへ、活動の輪を広げる

2　つながりづくりへの支援

①住民主体の地域づくりの推進
②地域と学校など多様な主体の連携・協働の推進
⇒子ども読書活動の推進
③ネットワーク型行政の推進

(3)創る

学びの成果を生かし、まちの中で豊かに生きる

3　学習成果の活用への支援

①学習の成果の活用の場づくりの推進
②学びと活動の好循環の構築

★次期計画策定中

・デジタル社会の進展による課題解決やウェルビーイングの実現に向けた学びに対する支援体制の構築等の取組を新たに追加予定

その他の見直し要素

〇社会教育委員会議による建議
令和6年6月

「大津市の社会教育の展開と今後のあり方について」

Ⅰ．子ども読書活動推進事業について

Ⅱ．昨今の急激な社会情勢の変化を踏まえた今後の社会教育のあり方について

【要旨】

▸子ども読書活動推進には、読書を核とした多様な豊かさと意義があることから、読書活動の機能性やサービスの範疇に留まらず、より豊かな事業展開を模索すること

① 大人から子どもへ本を勧める、地域における運動と仕組みづくり

→主体的に読書に親しみ、本が好きな子どもを育てるためには、家庭・地域・学校が連携し、多様な読書ができる環境を整えることが必要

② 親子の学びの場としての子ども読書活動

→子ども読書の現場が、親子の生きる力を身につけるための手助けとなる場になることが必要

③ 子ども読書活動の豊かさを実感できる仕組みづくり

→子ども読書の現場が、保護者にとって多様で豊かな学びを得ることができる場となることに加え、ボランティアにとっても、自分たちの活動そのものの意義の多様性・豊かさを認識できるような場となるような、仕組みを構築していくことが必要

児童生徒・保護者等へのアンケート結果
令和7年7月実施

【調査対象】

★小学4年生　2,937人（調査対象711人）
配付：594人　回答：485人　81.65%
▸前回689人/689人　100%

★中学2年生　2,812人（調査対象682人）
配付：599人　回答：542人　90.48%
▸前回886人/920人　96.30%

★4歳児保護者（調査対象499人）
配付：499人　回答：216人　43.29%
▸前回141人/478人　29.50%

★小学4年生保護者（調査対象711人）
配付：594人　回答：81人　16.70%
▸前回202人/689人　29.32%

★中学2年生保護者（調査対象682人）
配付：599人　回答：92人　16.97%
▸前回156人/920人　16.96%

★読書ボランティア（団体）（調査対象36団体）
配付：36団体　回答：30団体　83.33%
▸前回　35団体/54団体　64.81%

★読書ボランティア（個人）（調査対象28人）
調査：28人　回答：23人　82.14%
▸前回　調査無し

【主な調査結果】小学4年生、中学2年生

【問1】本を読むことが嫌い・どちらかといえば嫌い
小4：13%　中2：35%

【問2】本を読むことが嫌い・どちらかといえば嫌い選択者の嫌いな理由（上位1位）
小4：文章を読むことが苦手　34%
中2：文章を読むことが苦手　36%

【問4】1カ月に読む冊数が0冊
小4：14%　中2：22%

【問6】問4の回答が0冊の理由（上位1位）
小4：ゲーム、マンガの方が面白い
中2：テレビ、インターネットの方が面白い
※ともに「本を読むことが好きではない」が3位

【問7】1カ月にマンガや雑誌を読む頻度
毎日読む　小4：24%　中2：17%
読まない　小4：20%　中2：24%

【問9】学校の図書室で1カ月に借りる本が0冊
小4：34%　中2：85%

【問10】問9の回答が0冊の理由（上位1位）
小4：読みたい本がない
中2：読みたい本がない

【問15】幼い頃、家の人に本を読んでもらったことがよくあった、ときどきあった
小4：74%　中2：75%

【問16】地域の図書館を1カ月に利用する回数が0回
小4：49%　中2：83%